

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

第2次文化推進基本計画での位置づけ 重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))																	
											指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアングる等)											
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (1)誰もが文化を身近に楽しめる仕組みづくり	1	さくらまつり開催支援	継続	コミュニティの活性化とふるさとづくりの推進	さくらまつり協議会への活動助成及び安全対策への助成	さくらまつりを運営するための協賛金が集まりにくい。さくらまつり協議会の主体的な運営	誰もが参加できる安全に配慮したまつりの開催	4月1日、2日	芦屋川東側遊歩道(次正橋~国道2号東平橋間)・芦屋川河川敷特設ステージ	3,515	参加者数	人	16,500	15,500	現状維持	B	◎																		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
	2	ふれ愛シネサロン	継続	人権課題や平和・教育問題をテーマとした映画を通して、人権意識の高揚を図る	人権課題や平和・教育問題をテーマとした映画の上映	幅広い年代の参加		8月5日、2月3日	上宮川文化センター	519	参加者数	人	359	360	現状維持	A	◎																											
	3	あしや山まつり	継続	市民が自然に親しむ	ハイキング、木工教室、森林啓発、水 Rocket、コンサートなどの文化に親しむ。	自然に親しむ内容がやや薄い。	自然に親しむ内容を充実させる。		5月14日	奥池あそびの広場	535	参加者数	人	450	700	増加	B	◎																										
	4	あしや秋まつり開催支援	継続	地域の多世代交流を推進し、農村文化の継承	秋まつり協議会への活動及び安全対策支援	もともとの収穫祭としての要素が薄れている。	開催場所や内容について検討を行っている。		10月8日	精選小学校校庭	4,654	参加者数	人	5,500	5,500	増加	B	◎																										
	5	ワンコインシアター	継続	人権啓発の推進	名作映画の上映会実施	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	行事を通じて上宮川文化センターの利用につなげる。		年3~4回	上宮川文化センター	0	参加者数	人	441	386	増加	C	◎																										
	6	ヒューマンライツシアター	継続	人権啓発の推進	人権・平和・環境に関する映画を上映することで、人権意識の高揚を図る		今後適切に事業を継続する。		年2~3回	上宮川文化センター	423	参加者数	人	535	599	現状維持	S	◎																										
	7	保健福祉フェア	継続	芦屋市内の保健・福祉の関係団体等と一体となり、保健福祉センターと芦屋市の保健福祉事業の周知啓発を行う	保健福祉センターの事業内容の紹介と地域福祉や障がい福祉・高齢福祉事業の啓発、食育や健康増進の啓発を目的とし、イベント形式でフェアを行う。	市民の方に芦屋市の保健福祉の取組をより知っていただけるような、企画内容の充実が必要	今後も継続して実施することで保健福祉センター機能の周知を図っていく。	7月第4土曜日	はなみずき芦屋【保健福祉センター・木口記念会館・あしや温泉(足湯)】	104	参加人数(延べ)	人	8,202	9,058	現状維持	B	◎																											
	8	サマーカーニバル開催支援	継続	イベントを通じたコミュニティの推進	芦屋市民まつり協議会への活動助成及び交通安全対策への助成	南芦屋浜地区の整備が完了に近づいており、イベントの開催と周辺住民及び住民の安全対策を両立する必要がある	市の規模とイベントの規模を比較し、コミュニティの推進のために適切な規模のイベントを目指す		4/30	芦屋市総合公園 瀬戸屋緑地 瀬戸屋ビーチ	4,000	参加者数	人	98,950	98,450	現状維持	B	◎																										
	9	ママ/パパのための料理セミナー	新規	芦屋市の学校給食のPRと食についての関心を高めるために実施	市内小中学校に子どもを連れてくる保護者対象の料理教室(1回)市内、市外の方が幅広く参加できる料理教室	学校給食を通して食への興味関心を広げる。	29年度は芦屋市のプロモーション事業の1つであったが、30年度からは学校教育課独自の事業として推進していく。		11月~1月	福祉センター 芦屋学園短期大学	643	参加人数(4回)	人		120	現状維持	B	◎																										
	10	秋の大人が楽しむおはなしの会	継続	おはなし、読書の楽しさを伝える	大人を対象としたおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる		11月29日	図書館	0	参加者数	人	33	34	減少	A																											
	11	大人が楽しむおはなしの会	継続	おはなし、読書の楽しさを伝える	大人を対象としたおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる		2月21日	図書館	6	参加者数	人	44	47	現状維持	A																											
	12	金曜シネサロン	継続	文化に触れ、憩える場の提供	名画の上映会	プログラムの工夫	図書利用等につなげる事業にする		毎月2回	図書館	0	参加者数	人	1,262	1,616	減少	B																											
	13	資料の収集・保存・提供	継続	市民等の知的欲求に応える	資料の収集・保存・提供	芦屋市文化ゾーンとの連携等	市民等のニーズを踏まえた資料提供		通年	図書館	23,949	資料受入冊数	冊	15,287	14,029	現状維持	A	◎																										
	14	平和の鐘を鳴らそう	継続	戦中・戦後をしのび、平和を祈念するユネスコ活動の支援	終戦記念日である8月15日に市民センターにある歴々の鐘を鳴らし平和を祈り、戦争にまつわる話を聞き、平和について考える。	戦争を知っている世代の減少	過去の悲惨な出来事を繰り返さないよう、平和の尊さを啓発・継承して行くユネスコ活動を引き続き支援する。		平成29年8月15日	市民センター本館玄関前(平成29年度のみ)	0	参加者数	人	80	60	増加	B	◎																										
	15	市民センター管理運営	継続	市民センター施設の管理運営、貸出し	市民センター施設の管理運営、貸出し		今後も良好な施設管理を維持する。		通年	市民センター・公民館	66,226	件数	件	15,515	15,655	現状維持	B	◎																										
	16	【市民センター】	継続	市民の日頃の成果を発表する場を提供する	・市民ステージグループ・団体等の日頃の成果を発表する		今後も現状の事業レベルを維持する。		10/15~11/12	ルナ・ホール、小ホール	441	団体数	団体	12	9	現状維持	A	◎																										
	継続		市民の日頃の成果を発表する場を提供する	・市民ギャラリーグループ・団体等の日頃の成果を発表する		今後も現状の事業レベルを維持する。		10/7~11/9	市民センター・公民館	団体数		団体	14	15	現状維持	A	◎																											
	継続		市民の日頃の成果を発表する場を提供する	・市民絵画展個人が製作した絵画を展示する		今後も現状の事業レベルを維持する。		9/6~9/10	市民センター	出品者数		人	40	42	現状維持	B	◎																											
	19	【ルナ・ホール事業】	継続	映画芸術に親しむ	・いきいきシネマサロン映画「この世界の片隅に」、映画「団地」、映画「湯を沸かすほどの熱い愛」、映画「家族はつらいよ2」		今後も現状の事業レベルを維持する。		7/22、9/23、11/25、3/17	ルナ・ホール	13,500	来場者数	人	2,912	2,656	現状維持	A	◎																										
	20		継続	あしやティアフル映画祭			今後も現状の事業レベルを維持する。		12/23	ルナ・ホール		来場者数	人	515	529	現状維持	A	◎																										
	21		継続	親子で映画に親しむ	・いきいきシネマサロン「ペット」(子ども)映画「ペット」		今後も現状の事業レベルを維持する。		7/29	ルナ・ホール		来場者数	人	698	769	現状維持	B																											
	22		継続	文学に親しむ	芦屋文学サロン「富田砕花と谷崎潤一郎」		今後も現状の事業レベルを維持する。		10/1	ルナ・ホール		来場者数	人	443	358	現状維持	A	◎																										
	23		継続	映画とトーク「細雪」			今後も現状の事業レベルを維持する。		1/20	ルナ・ホール		来場者数	人	-	498	現状維持	A	◎																										
	24		継続	文化・芸術に親しむ	芦屋能・狂言鑑賞の会		今後も現状の事業レベルを維持する。		11/16	ルナ・ホール		来場者数	人	-	435	現状維持	A	◎																										
	25	継続	落語に親しむ	市民寄席「ざこば南光塩鯛三人会」		今後も現状の事業レベルを維持する。		11/24	ルナ・ホール	来場者数	人	545	552	現状維持	A	◎																												
	26	継続	音楽に親しむ	松永貴志ライブ		今後も現状の事業レベルを維持する。		2/17	ルナ・ホール	来場者数	人	376	382	現状維持	A	◎																												

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

第2次文化推進基本計画 での位置づけ	重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規 継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施 期間	実施 場所	平成29年度 事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎を記入ください)																					
												指標名	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標		市民 全般	男性	女性	乳幼児	小学生	成人	高齢者	障がい のある 人	外国人	その他	掲載された広報媒体(該当するところ◎を記入ください)											
																												広報 あしや	市HP	ウェブ サイト (市HP 以外)	ポス ター チラシ	SNS	TV 新聞等	その他 (あしやトラ イあんぐる 等)					
		27	地区集会所管理運営事業	継続	地域社会における相互の親睦と文化活動の増進に寄与	指定管理者(地区集会所運営協議会連立会)による管理運営文化活動の拠点としての場の提供【伝統文化(行事)の継承】餅つき大会、どんと焼き、桜まつりなど	地域活動団体の継続性と自立性の維持	地域活動活性化と文化活動参加の機会の提供	4月1日～3月31日	地区集会所	41,907	利用件数	件	21,485	21,129	現状維持	B	◎											◎										
		28	上宮川文化センター管理運営	継続	上宮川文化センター施設の管理運営、貸出	上宮川文化センター管理運営・貸出	内容の充実及びPR方法の再検討	今後も適切に事業を継続する。	通年	上宮川文化センター	16,717	使用件数	人	3,944	3,826	現状維持	B	◎											◎	◎									
		29	介護予防、通いの場づくり補助事業	新規	高齢者等の社会的孤立の解消、心身の健康保持及び要介護状態の予防並びに地域の支え合い体制を推進する。	地域の集会所等で、住民どうしがより身近に集まれる地域の居場所を運営する団体または個人に補助金を交付するもの。	事業利用者の増加	事業及び事業を利用している居場所の周知により地域活動を促進する。	平成29年度～	各居場所	750	事業利用数	人/団体		5	増加	B										◎	◎	◎										
		30	ひとり役活動推進事業	新規	ボランティア活動その他の社会的活動を通じて、地域での支え合い体制づくり及び高齢者自身の社会参加活動を通じた介護予防の推進を図り、健康で生き生きとした地域社会づくりを推進する。	介護保険施設等や高齢者の居宅において、レクリエーションの手伝い等のボランティア活動(ひとり役活動)を行う方を、ひとり役ワーカーとして登録し、その活動実績に応じてポイントを付与し、年度末に換金(上限・要件あり)するもの。	ひとり役ワーカー登録者数の増加及び活動先の拡充	事業の周知等により、ひとり役ワーカー登録者数の増加及び活動先の拡充を図り、活動を促進する。	平成29年度～	登録施設・高齢者宅等	8,322	ひとり役ワーカー登録者数	人		123	増加	B											◎	◎	◎	◎					◎			
		31	学校園・家庭・地域の教育推進支援事業(本の虫ねっと連絡会)	継続	本の虫ねっと連絡会への参加及び調整等の支援を行なうことで、文化活動を通じた地域のつながりづくりの推進や、読書に親しむことのできる環境の整備を目指す。	本の虫ねっと世話役及び各ボランティア団体の主催する本の虫ねっと連絡会への参加及び調整等の支援	読み聞かせボランティア活動及び図書室の開設ボランティア活動の担う人手が足りない地域がある。	読み聞かせボランティア活動及び図書室の開設ボランティア活動の充実	6月23日、11月17日、2月16日	戸塚市立小学校	10	本の虫ねっと連絡会への参加回数	回	3	3	現状維持	B																				◎		
		32	あしや学びあいセミナー	新規	社会教育関係団体の会員等が、活動の中で習得された知識などを生かし、講師として講座を行い、学びの輪を広げる。	本市社会教育関係団体や、社会教育活動を通じて学んだ市民による出前講座の実施	平成29年度は社会教育関係団体対象の説明会で事業について説明したが、今後もさらに周知が必要	講師登録希望者を増やすために、事業についての周知徹底を行う。			0	講師登録団体数	団体	-	38	増加	B	◎																		◎			
		33	社会教育関係団体支援・育成事業	継続	社会教育活動の推進	・戸塚市の考える社会教育関係登録団体について正しく理解していただくための説明 ・社会教育関係団体の登録更新及び広報あしや(市民のひろば)欄への掲載依頼許可及び市内広報掲載板の使用許可等、情報発信の支援	・社会教育関係登録団体としての役割が理解されていない。 ・各団体内の活動のみの現状維持がほとんどである。	・社会教育関係登録団体としての役割を理解いただき、活動を促す。 ・団体相互の連携や協力を促し活性化を図る。			79	新規登録申請団体数	団体	4	4	現状維持	B	◎																			◎		
		34	社会教育関係団体支援・育成事業	継続	社会教育活動の推進	従来からの団体補助の他、公募提案型補助金制度を設け、社会教育関係団体が行う事業内容に対して支援を行う。	公募提案型補助金制度については、平成29年度の社会教育関係団体対象の説明会で事業について説明したが、今後もさらに周知が必要。	公募提案型補助金制度の内容を多くの社会教育関係団体に周知し、団体の活発な活動を支援していく。			4,728	交付団体数	団体	-	19	増加	B	◎																			◎		
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (2)文化活動を通じた地域のつながりづくり		35	文化財ボランティア養成事業	継続	市民主体の歴史・文化財の活用と継承	・文化財ボランティア養成講座及び研修(計7回・延46名) ・トライやる・ウィークへの協力(計1回・延19名) ・展覧作業協力(計2日・4名) ・文化財関連イベント・ワークショップへの協力(計3回・延12名) ・出土遺物接合・復元作業(延110名) ・普及啓発に関するものづくり(延105名)		・ボランティアが学んだ知識を伝える機会をつくる。 ・ボランティアの活動拠点をつくる。	通年	三友文化財整理事務所 他	-	延参加者数	人	340	299	現状維持	B																				◎		
		36		継続		・世界はニュースだけではわからない 募集定員90名、月1回(全6回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	4/7～9/16	市民センター・公民館		受講者数	人	113	83	現状維持	A	◎											◎	◎									
		37		継続		・阪神間街かどウォッチング 募集定員25名、全2回、講師とともに街を歩く野外講座		今後も現状の事業レベルを維持する。学ばれた受講者が案内人として活躍できるようにしたい。	4/9～4/20	市民センター・公民館		受講者数	人	23	23	現状維持	A	◎											◎	◎									
		38		継続		・日本人の源流・神話を訪ねて 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	4/10～6/12	市民センター・公民館		受講者数	人	86	90	現状維持	A	◎											◎	◎									
		39		新規		・阪神間ゆかりの作家たち 募集定員90名、月1回(全4回)の文学講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	4/13～7/13	市民センター・公民館		受講者数	人	-	67	現状維持	B	◎											◎	◎									
		40		継続		・歴史を語る-日本近現代史のいくつかの問題点- 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	4/14～6/9	市民センター・公民館		受講者数	人	122	90	現状維持	A	◎											◎	◎									
		41	【公民館講座】	継続		・芦屋の街かどウォッチング 募集定員20名、全2回、講師とともに街を歩く野外講座		今後も現状の事業レベルを維持する。学ばれた受講者が案内人として活躍できるようにしたい。	4/28～5/12	市民センター・公民館	7,000	受講者数	人	22	30	現状維持	A	◎											◎	◎									
		42		新規		・日本近現代史講座「阪神間モダン再考」 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	7/7～9/1	市民センター・公民館		受講者数	人	-	61	現状維持	A	◎											◎	◎									
		43		新規		・芦屋の街かどウォッチング 石造文化財 募集定員25名、全2回、講師とともに街を歩く野外講座		好評の講座となったため、次年度以降も実施したい。	9/21～9/28	市民センター・公民館		受講者数	人	-	30	現状維持	A	◎												◎	◎								
		44		継続		・日本人の源流・神話を訪ねて 募集定員90名、月1回(全6回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	10/2～3/5	市民センター・公民館		受講者数	人	86	91	現状維持	A	◎											◎	◎									
		45		新規		・阪神間ゆかりの作家たち 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	10/5～12/7	市民センター・公民館		受講者数	人	-	47	現状維持	A	◎											◎	◎									
		46		新規		・歴史を語る-日本近現代のいくつかの問題点 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	10/12～12/8	市民センター・公民館		受講者数	人	-	81	現状維持	A	◎											◎	◎									

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))													
											指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしや・トライあんぐる等)							
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 ②文化活動を通じた地域のつながりづくり	47	【公民館講座】	継続		・田辺真人先生の「文化の歴史」講座 募集定員90名、月1回(全6回)の歴史講座		従来から継続している人気のある講座で、今後も継続して実施する。	10/19~3/15	市民センター・公民館	7000(再掲)	受講者数	人	71	78	現状維持	A	◎											◎	◎	◎										
	48		継続	阪神間や芦屋等の歴史・文化を学ぶ機会を設ける	・芦屋で暮らした人々 募集定員90名、月1回(全3回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	1/13~3/10	市民センター・公民館	受講者数	人	78	109	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	49		新規		・ちめ海の海に広がる神話の世界 募集定員90名、月1回(全2回)の歴史講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	1/26~2/23	市民センター・公民館	受講者数	人	-	70	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	50		新規		・健康ハイキング講座 募集定員20名、全3回、講師とともに山を歩く野外講座		今後も現状の事業レベルを維持する。学ばれた受講者が案内人として活躍できるようにしたい。	9/25~12/4	市民センター・公民館	受講者数	人	-	29	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	51		新規	健康を学ぶ機会を設ける	・篠崎先生の精神医学講座 募集定員90名、月1回(全3回)の精神医学講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	1/27~3/31	市民センター・公民館	受講者数	人	-	54	現状維持	B	◎													◎	◎	◎									
	52		継続		・芦屋大学公開講座 募集定員90名、全2回の芦屋大学と共催で実施する健康講座		今後も芦屋大学との共催をしながら、良好な講座を実施する。	2/3~2/24	市民センター・公民館	受講者数	人	115	36	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	53		継続	病気や医療の知識を深める機会を設ける	・芦屋病院公開講座 募集定員80名、全5回の芦屋病院と共催で実施する健康講座	講座のテーマによって参加者にはらつきがある。	関心の薄いテーマであっても、万遍なく講座を行う必要がある。引き続き、1回のみ受講者を受け入れる。	4/8~8/5	市民センター・公民館	受講者数	人	17(1回だけの受講者258人を含めない)	11(1回だけの受講者267人を含めない)	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	54		継続	科学や技術を学ぶ機会を設ける	・サイエンス講座-現代を生きるための脳科学 募集定員90名、月1回(全3回)のサイエンス講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	4/15~6/24	市民センター・公民館	受講者数	人	39	85	現状維持	B	◎													◎	◎	◎									
	55		継続	インターネット検索など、日常生活に即したパソコンの使用を目的に、学習する機会を設ける	・初心者向けパソコン講座 募集定員15名、全4回のパソコン講座	受講者のレベル差があるため、どのレベルをターゲットにするかが難しい。	講座を受講した方々が講師になっていただくようにする。常に受講者のニーズを把握する。	6/9~6/30	市民センター・公民館	受講者数	人	10	5	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	56		新規	経済・歴史を学ぶ機会を設ける	・経済学講座「経済学は何を答えようとしてきたのか」 募集定員90名、月1回(全3回)の経済学講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	7/20~9/7	市民センター・公民館	受講者数	人	-	43	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	57	新規	心理学を学ぶ機会を設ける	・心理学講座(生涯いきいきの健康を心理学から考える) 募集定員90名、月1回(全3回)の心理学講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	7/27~9/7	市民センター・公民館	受講者数	人	-	67	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										
	58	新規	死生学を学ぶ機会を設ける	・死生学講座「生きる」を考える 募集定員90名、月1回(全2回)の死生学講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	8/12~9/9	市民センター・公民館	受講者数	人	-	67	現状維持	B	◎													◎	◎	◎										
	59	継続	病気や医療の知識を深める機会を設ける	・芦屋病院公開講座 募集定員80名、全6回の芦屋病院と共催で実施する健康講座	講座のテーマによって参加者にはらつきがある。	関心の薄いテーマであっても、万遍なく講座を行う必要がある。引き続き、1回のみ受講者を受け入れる。	10/7~3/3	市民センター・公民館	受講者数	人	16(1回だけの受講者315人を含めない)	5(1回だけの受講者221人を含めない)	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										
	60	継続	科学や技術を学ぶ機会を設ける	・サイエンス講座-宇宙物理学入門 募集定員90名、月1回(全3回)のサイエンス講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	10/14~12/9	市民センター・公民館	受講者数	人	39	65	現状維持	B	◎													◎	◎	◎										
	61	継続	時事問題の知識を深める機会を設ける	・世界はニュースだけではわからない 募集定員90名、月1回(全6回)の時事問題講座		今後も現状の事業レベルを維持する。	10/21~3/17	市民センター・公民館	受講者数	人	91	79	現状維持	B	◎													◎	◎	◎										
	62	継続	外国人に対して日本語の会話、読み書きを学ぶ機会を設ける	・にほんごがきゅう全50回の日本語を教える講座(通年)	参加者が増えると講師の確保が困難となる。	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/6~3/29	市民センター・公民館	延べ参加者数	人	317	223	現状維持	B						◎								◎	◎	◎										
	63	継続	歴史・文化や教育等を学ぶ機会を設ける	・家庭教育セミナー 消費生活セミナー 平和事業講演会等、年12回実施		今後も現状の事業レベルを維持する。	通年	市民センター・公民館	延べ参加者数	人	1,501	1,014	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										
	64	【公民館】	継続	歴史・文化・科学・美術等を学ぶ機会を設ける	・NHK公開セミナーの共催事業 全3回のNHKと共催で実施するセミナー	NHKとの共催事業のため、実施できるかはNHK次第である。	10/6、10/12、1/29	ルナ・ホール	延べ参加者数	人	1,295	1,679	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										
	65	継続	親子で学ぶ機会を設ける	・子ども教室 モルアート教室 オカリナ教室 子どもクッキング等、年15回実施		基本的には現在の内容で十分であるが、新しい要素を取り入れられないか検討する。	7/31~8/25	市民センター・公民館	延べ参加者数	人	376	424	現状維持	A														◎	◎	◎										
	66	新規	学校卒業後の視覚障がい者に対して身体障害者社会福祉を開設し、社会人としての教養や知識を習得し、交流の場を設ける	・阪神青い鳥学級南支部芦屋教室 視覚障がい者による等、ピアノの演奏、陶芸教室、ストレッチ、落語、交流の場を設ける		尼崎市・西宮市・芦屋市で3年に1回担当市となる。	9/15~10/27	公民館音楽室 あしあわせの村	700	受講者数	人	-	26(芦屋市からの参加者)	現状維持	A													◎	◎	◎										
67	新規	【公民館音楽会】	新規	・〜貴志康一 没後90年〜貴志康一のバイオリン曲と美しいピアノトリオ		今後も現状の事業レベルを維持する。	5/20	公民館音楽室	参加者数	人	-	116	現状維持	A	◎												◎	◎	◎											
68	継続		継続	・竹中真ジャズピアノコンサート 〜ジャズで聴く夏の歌〜		今後も現状の事業レベルを維持する。	7/15	公民館音楽室	参加者数	人	89	135	現状維持	A	◎												◎	◎	◎											
69	新規		新規	・ハッピーツインズ 情熱のヴァイオリンデュオ		今後も現状の事業レベルを維持する。	9/30	公民館音楽室	参加者数	人	-	123	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										
70	新規		新規	・花井結 ヴァイオリンコンサート		今後も現状の事業レベルを維持する。	12/16	公民館音楽室	参加者数	人	-	130	現状維持	A	◎													◎	◎	◎										

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

第2次文化推進基本計画での位置づけ	重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))												
												指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライあんぐる等)						
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (2)文化活動を通じた地域のつながりづくり	71	【公民館音楽会】	継続	音楽の知識を深める機会を設ける	・スプリングコンサート歌曲の愉しみ	今後も現状の事業レベルを維持する。	3/3	ルナ・ホール	500(再掲)	参加者数	人	99	128	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	72	【公民館】	継続	展示場を使用し、芦屋の歴史や文化を学ぶ機会を設ける	・常設展示事業 7月14日～8月16日 平和展「阪神間文学に見る 大戦下の街と暮らし」 8月18日～9月1日 芦屋のペット大集合写真展 9月20日～10月2日 絆花をめぐる文豪と文化人 3月24日～31日 桜が似合う街写真展	民間委託による事業であり、質・量ともに委託事業者と協議の上、向上させたい。特に開散期である冬場に常設展示できるように協議していく。	7/14～3/31	公民館展示場	400	回数	回	2	4	増加	B	◎												◎	◎	◎										
	73	公民館ギャラリー	継続	展示場を使用し、市民団体の成果発表を行う場を提供する	芦屋さくらまつり写真コンクール 世界の切手展 芦屋市コミスク合同文化展 等	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/1～2/26	公民館展示場		回数	回	17	18	現状維持	A	◎													◎	◎	◎									
	74	【公民館】芦屋川カレッジ34期生	継続	高齢者大学	芦屋川カレッジ34期生 必須コース 選択コース(和文化探訪、世界探訪)	カレッジ受講生を増やす取組が必要である。	今後も現状の事業レベルを維持する。	5/10～3/14	市民センター・公民館	7,000	受講者数	人	91	72	増加	B														◎	◎									
	75	【公民館】芦屋川カレッジ聴講生	継続		芦屋川カレッジ聴講生 必須コース 選択コース(和文化探訪、世界探訪)	今後も現状の事業レベルを維持する。	5/10～3/14	市民センター・公民館	受講者数		人	125	136	現状維持	A																◎	◎								
	76	【公民館】芦屋川カレッジ大学院	継続		日本と世界の舞台芸術	今後も現状の事業レベルを維持する。	4/24～3/26	市民センター・公民館	受講者数		人	107	114	現状維持	A																◎	◎								
77	人権啓発展示会	継続	人権啓発の推進		同和問題をはじめ日本社会における重要な人権課題や、平和・教育問題をテーマに展示会を行い、啓発の場とする。	今後も適切に事業を継続する。	2月15日～3月1日	上宮川文化センター	0		掲示パネル数	枚	40	59	現状維持	A																								
78	リーダー養成講座	継続		同和問題をはじめ日本社会における重要な人権課題や、平和・教育問題をテーマに講演会を実施し、啓発の場とする。	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	今後も適切に事業を継続する。	2月15日～3月1日	上宮川文化センター	31	参加者数	人	82	59	増加	C	◎													◎	◎										
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (3)ユニバーサル社会づくりを目指した生涯学習活動の振興	79	エントランスコンサート	継続	保健福祉センターが地域福祉の拠点として市民の憩いの場となるよう周知啓発を行う	毎月第4日曜日、エントランスホールに設置のピアノを使用してコンサートをを行う。	障がいのある人の出演や手話歌を取り入れるなどの福祉の理解・啓発を進める福祉センターの特性を生かした事業運営が必要	毎月1回開催(年12回開催)	保健福祉センターエントランスホール	100	参加人数	人	1,600	1,725	現状維持	B	◎												◎	◎	◎	◎									
	80	芦屋市障がい児・者作品展	継続	文化を通じた世代間交流	多くの市民に障がい児・者への理解を深めてもらうことを目的に作品を展示。	平成29年度から障害者週間及び年末の集いに合わせて、実施期間を変更したことにより、鑑賞者と感想文の提出者数が増加したが、まだまだ市民への認知度が低いと思われる。(障がい団体からの出展数は12団体から16団体に増加するも、一般は4名で増加なし。)	12月5日～11日	保健福祉センター1階エントランスホール及び木口記念会館1階ホール	0	障害者手帳所持者数における出展者数の割合	%	4.1	6.4	増加	A	◎				◎							◎	◎	◎	◎										
	81	敬老会事業	継続	高齢者の生きがい支援	高齢者を招待し、演芸鑑賞を実施	対象者の選定	高齢者のニーズに合わせて内容を検討していく。	9月16日	ルナ・ホール	1,188	参加人数	人	600	600	現状維持	B														◎	◎									
	82	演芸フェスティバル	継続		高齢者を中心とした文化的活動を行っている市民グループが集い、コースや踊りなど日頃の練習の成果を披露	企画・内容・参加団体の固定化	新たな団体に参加してもらえる取組を検討していく。	1月13日	ルナ・ホール	412	参加人数	人	400	400	現状維持	B														◎	◎									
	83	Y〇倶楽部活動支援	継続		芦屋で結成された文化的活動を行う高齢者の団体への支援	会員の増加	活動が活性化できるよう支援を行う。	通年		100	会員数	人	145	148	現状維持	B															◎	◎								
	84	老人クラブ活動支援	継続		高齢者の地域での活動を通じた仲間づくりの支援	会員の増加	活動が活性化できるよう支援を行う。	通年		7,210	会員数	人	3,042	3,013	増加	B														◎	◎	◎								
85	生きがいデイサービス	継続	身近な地域で高齢者のつどいの場を提供し、学芸や体操、歌や絵画等を実施。		参加人数の増加及び取組内容の変更	より多くの地域の方にご利用いただけるよう整備を行うなど、取組内容の変更を検討していく。	通年		2,488	参加人数	人	4,815	5,531	増加	S														◎	◎										
86	シルバー人材センター支援	継続	高齢者が就労を通して様々な活動を展開し、住みよい街づくりに貢献できるよう支援。		会員の増加及び取組内容の拡充	高齢者の社会参加の拠点となるような企画を行う。	通年		20,000	会員数	人	1,092	1,109	増加	B														◎	◎	◎	◎								
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (4)文化ゾーンの活性化、各種施設の有効活用	87	ゆうゆう倶楽部の活用	継続	高齢者の生きがい支援	小学校の敷地内に集会所を設置し、健康体操や手芸、絵画等の活動を行う市民に開放し、高齢者の居場所を提供	同じ団体の利用が大半。新規拡大に向けた参加人数及び利用回数の増加。	地域拠点となるような企画を行う。	通年	朝日ヶ丘小学校、潮見小学校	86	参加人数	人	4,065	2,890	増加	C													◎	◎										
	88	老人福祉会館の運営	継続		高齢者が囲碁や将棋等を通じて交流を深めることができる居場所の提供	利用者の増加及び内容の拡充	高齢者の社会参加の拠点となるような企画を行う。	通年	老人福祉会館	5,090	利用者数	人	27,100	26,086	増加	C													◎	◎										
	89	学校園施設目的外使用の許可	継続	交流機会の促進	条例に定めるところにより、学校園施設目的外使用の許可を行った。	学校園の運営上支障がない範囲という原則を踏まえつつ、いかに市民のかたに活動の場を提供できるかという調整を図ること。	引き続き迅速かつ適切な事務処理に努めたい。	通年	学校園	0	目的外使用の許可件数	件	232	298	現状維持	A	◎																							
	90	n i w a - d o k u	新規	芦屋市文化ゾーンの三館が連携して、文化的なイベントを実施する	美術博物館・谷崎潤一郎記念館の庭で読書を楽しむ	活動内容の検討	今後も継続・充実させる	11月4日	図書館 美術博物館 谷崎潤一郎記念館	0	参加者数	人	-	564	増加	S	◎												◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				

第2次文化推進基本計画 での位置づけ	重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規 継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施 期間	実施 場所	平成29年度 事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください)										
												指標名	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標		市民 全般	男性	女性	乳幼児	小中 学生	成人	高齢者	障がい のある 人	外国人	その他	広報 あしや	市HP	ウェブ サイト (市HP 以外)	ポス ター チラシ	SNS	TV 新聞等	その他 (あしやトラ イあんぐる 等)				
		91	コミュニティ・スクールへの活動支援事業	継続	学校を拠点とする文化活動を通じたコミュニティの創造	市内9コミスクからなる連絡協議会と各コミスクに対する補助金や連絡調整等を行うことにより、世代間及び地域の交流事業や文化活動等のコミスク活動の支援を行う。	役員が後継者不足になっている地域がある。	現状維持		戸屋市立小学校等	3,191	コミスクが実施した地域交流事業数	回	128	97	現状維持	B	◎									◎	◎				◎						
①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (5)文化芸術を行う団体への支援		92	市民後援名義の使用承認	継続	市民主体の文化・スポーツ等の振興	活動団体に対する後援名義の使用承認	市民の文化活動促進に寄与する事業であるかどうかの適切な審査	迅速かつ適切な審査を行い文化・スポーツの振興を図る。	4月1日～3月31日		0	承認件数	件	100	116	増加	B	◎																				
		93	地区集会所での社会教育関係団体等の使用料減免	継続	地区集会所での文化活動等の促進と地域の活性化	社会教育関係団体等への地区集会所利用の減免	社会教育関係団体等の活動の活性化	利用料金の減免により社会教育関係団体等の活動促進を図る。	4月1日～3月31日	地区集会所	0	利用割合	%	19	19	増加	B	◎																◎				
		94	戸屋市芸術文化活動助成	継続	市民の芸術文化活動の振興	個人又は団体に対する活動助成・支援	助成団体が限られている。	文化活動助成制度の周知を行い、助成対象者の増加を図る。	4月1日～3月31日		50	補助件数	件	6	3	増加	B	◎													◎	◎						
		95	市民文化振興基金の啓発事業	継続	市民の芸術文化活動の振興	ふるさと寄附金を活用した市民文化振興基金の啓発	寄附文化の意識の醸成	文化活動に対する個人や企業からの支援の促進	4月1日～3月31日		0	寄附金件数	件	6	2	増加	C	◎																				
		96	市民提案型事業補助金	新規	市民の地域課題解決に向けた取り組み(文化等も含む)の推進	1団体10万円×3団体を目安に提案のあった活動に対する補助金交付	補助金情報等の認知度の低さ	適切な情報提供により文化活動の円滑化と活性化を図る。	4月1日～3月31日		316	交付件数	件	-	4	現状維持	A	◎																	◎	◎		
		97	戸屋市芸術文化顕彰事業	継続	市民の芸術文化活動の振興	文化活動に対する顕彰	顕彰対象者を広げることによる顕彰基準の検討	顕彰により、さらなる文化活動の促進を図る。	3月17日	戸屋市市民センター301・302室	51	顕彰件数	件	18	21	現状維持	A	◎																	◎	◎		
		98	戸屋市教育委員会後援名義の使用承認	継続	教育、学術、文化及びスポーツ活動の振興	教育、学術、文化及びスポーツに関する事業を行う団体に対し、戸屋市教育委員会の後援名義の使用を承認する。	市民の文化活動促進に寄与する事業であるかどうかの適切な審査	引き続き迅速かつ適切な事務処理に努め、教育、学術、文化及びスポーツの振興を図る。	通年		0	承認件数	件	165	174	現状維持	B	◎																				
		99	富田碎花賞の実施	継続	富田碎花賞の開催を通じて、富田碎花を顕彰	平成28年7月から平成29年6月に刊行された現代詩集を募集し、受賞詩集を選考、賞を贈呈する。	応募詩集数が増加するよう取り組む。	富田碎花賞を実施し、富田碎花の顕彰につなげる。			1,111	応募詩集数	冊	89	85	増加	B	◎																		◎		
		100	【市民センター】	継続	文化プロデューサーを育成するためにルナ・ホールで公演する機会を提供する	・夢ステージ ・夢ステージ 能楽ワークショップと「船弁慶」の上演	今後事業を実施し、安定して公演できるようにする。		2/10	ルナ・ホール	1,046	来場者数	人	-	307	現状維持	A	◎																		◎		
	①全てのライフステージに文化が行き届く文化政策の推進 (6)文化に関する情報発信の強化		101	Facebook・Instagramによる魅力発信事業	新規	美術館・谷崎純一郎記念館等での展示会・イベントをタイムリーに情報発信	展示会やイベントの告知や開催の様子などを発信	展示会やイベントの投稿へのリチア数を低減	掲載文の表現や動画などを使用するなど、投稿へのリチア数を増やし、情報発信の強化を目指す	平成29年度～		0	フォロワー	人	-	400	増加	B		◎	◎																	
②未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進 (1)豊かな情操を育む体験活動の推進		102	食育講座	継続	身近な題材を通じて、食の問題を楽しく考える。		今後も適切に事業を継続する。	夏休み・11月	上宮川文化センター	31	参加人数	人	176	240	現状維持	B																		◎	◎			
		103	お話しシアター	継続	児童の健全育成を図る。	歌や物語を通して、豊かな感性や表現力を育てる。	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	今後も適切に事業を継続する。	夏休み	上宮川文化センター	21	参加人数	人	202	150	増加	C																			◎	◎	
		104	人形劇	継続	児童の健全育成を図る。	人形劇を通して豊かな心を育てる。		今後も適切に事業を継続する。	9月	上宮川文化センター	31	参加人数	人	62	86	増加	S																			◎	◎	
		105	児童センター映画会	継続	児童の健全育成を図る。	子どもの想像力や表現力を養い、文化・芸術活動を高めることにより児童の健全育成を図る。		今後も適切に事業を継続する。	夏・春休み	上宮川文化センター	100	参加人数	人	247	320	増加	S																			◎	◎	
		106	戸屋市学校給食展	継続	戸屋市における学校給食について深く理解を求め、学校と家庭・地域社会と連携を深め、児童生徒の健全な心身の発達に資する食生活を探索する。	学校給食、栄養、食生活についてパネル展示およびクイズラリー、児童・生徒作品展示、試食コーナー、出前講座	より広く市民の皆様にも来場していただき、各コーナーで十分に楽しんでもらうための条件整備をする。	ホームページやポスター等でPR活動を充実させる。	7月27日～28日	市民センター	336	参加人数	人	約500	564	現状維持	B	◎																		◎	◎	
		107	折り紙教室(子ども対象)	継続	図書館の利用促進	子ども対象の折り紙教室	参加者の低年齢化	引き続き事業を継続・充実させる	7月26日	図書館	22	参加者数	人	36	60	現状維持	A																				◎	◎
		108	人形劇の会	継続	図書館の利用促進	幼児～小学生向けの人形劇の実施	参加者の低年齢化	引き続き事業を継続・充実させる	8月29日	図書館	15	参加者数	人	108	121	現状維持	A																				◎	◎
	109	子ども対象文化財関連事業	継続	市内の小中学生が戸屋の歴史や文化財に触れるきっかけをつくり、郷土愛を育む。	・市内小学校社会見学等の受け入れ(計2件・157名) ・トライヤル・ウィークの受け入れ(計4校・11名) ・キッズスクエア(1回・13名) ・文化財関連ワークショップ(計3回・292名)		戸屋市の子どもたちが、本市の歴史や文化財を知り、地域への誇りと愛着が生まれるよう、子ども対象の文化財関連事業を実施する。						242	483	現状維持	A																			◎	◎		

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規 継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施 期間	実施 場所	平成29年度 事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))													
											指標名	単位	H28 実績	H29 実績	H30 目標		市民 全般	男性	女性	乳幼児	小中 学生	成人	高齢 者	障が い の あ る 人	外国 人	その他	広報 あし や	市HP	ウェブ サイト (市HP 以外)	ポス ター チラシ	SNS	TV 新聞 等	その他 (あし やト ライ あ ん く る 等)							
②未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進 (2)地域社会とのつながりによる文化体験	110	味覚の1週間	継続	児童に対して味覚教育・学習を行い五感を使って味わう大切さを知らずとも食への正しい理解と高い関心を育む	五感を活用しながら味の基本となる4つの要素(塩味、酸味、苦味、甘味)にうまみを加えた5つの味について味わうことの楽しさに触れる味覚の授業を実施。芦屋市内のシェフによるコラボ給食提供(日本料理、イタリアン、フレンチ)をしていただき、その際に教わった調理方法を給食に取り入れる。	日常的な給食にどうつなげていくかを考える。	学校園と連携し、さらなる食育を推進していく。	10月~11月	各小学校	90	実施学校数	校	8	8	現状維持	B																								
	111	あしやキッズクエア	継続	児童の放課後の居場所づくり	・小学校の児童が放課後に校庭や校舎を利用し、地域の方等の見守りを受けながら安全に過ごす居場所を提供する。 ・専門家や地域の方々の指導を受けながら、様々な体験活動を行う。	地域のプログラム指導者の更なる発掘	・地域の歴史、文化、風俗等を感じられるプログラムの開発 ・より多様な文化を体験できるプログラムの開発	4月1日~3月31日	市内全8小学校	28,713	1校あたり平均利用者数	人/日	26	30	現状維持	A																							◎	
	112	母親教室	継続	児童の健全育成を図る。				今後も適切に事業を継続する。	随時	上宮川文化センター	42	参加者数	人	51	55	現状維持	B	◎																						
②未来を切り拓く子どもたちへ向けた文化政策の推進 (3)親子に向けた積極的な情報発信	113	児童センター子育て講演会	継続	児童の健全育成を図る。	子育て、教育について様々なテーマで講演会を実施する。	内容の充実及びPR方法並びに目標設定の再検討	今後も適切に事業を継続する。	11月1日	上宮川文化センター	30	参加者数	人	21	20	増加	C	◎																							
	114	親子で楽しむおはなしの会	継続	子どもたちや大人に本の楽しさを伝える	親子を対象としたおはなし会	保護者への取り組み	引き続き事業を継続・充実させる	5月13日、5月20日、10月14日、10月21日	図書館	0	参加者数	人	121	164	減少	A					◎																			
	115	親子で楽しむ絵本の会	継続		親子を対象とした読み聞かせ	保護者への取り組み	引き続き事業を継続・充実させる	5月13日、5月20日、10月14日、12月6日	図書館	0	参加者数	人	142	164	減少	A						◎																		
	116	わくわく子育てアプリ	継続	子育てに関する行政サービス情報や子育て情報をタイムリーに発信する。	主に就学前の子育てに関する行政情報を集めて掲載している。	イベント情報の集約	子育てに関する情報を積極的に発信していく。	通年	-	648	アプリダウンロード数	人	-	1,406	現状維持	A																							子育て世代	
	117	学校園・家庭・地域の教育推進支援事業(ほっこりママサロン)	継続	子育てに悩みを持つ親を対象に、家庭教育の支援を行なう。	幼稚園で実施している「さんさんひろば」に参加している子どもが遊んでいる間に保護者で集まって話をしていたことで、子育ての悩みを共有し、家庭教育の支援を行なう。	実施2年目の事業であるため、周知の必要がある。	家庭教育支援のため、情報提供を行なう。	3月8日、3月15日	芦屋市立幼稚園	2	ほっこりママサロンの実施回数	回	2	2	現状維持	B																								
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (1)暮らしに根ざした文化交流のまちづくり	118	姉妹都市交流事業	継続	外国文化との交流、姉妹都市との交流を深めることによって、国際化に対応した人づくりを目指す。	姉妹都市学生観音使節の相互派遣事業: 7月から8月にかけて、学生観音使節2名ずつが相互に、姉妹都市を訪問し交流した。	幅広い世代の市民に参加していただけるよう事業内容の工夫	幅広い世代の市民への周知を行い、多くの市民が関わることでできる事業の実施	昭和36年度~	芦屋市内、モンテペロ市内	1,034	参加者数(学生観音使節の相互派遣事業)	人	666	726	増加	B	◎																							
	119	瀬戸屋交流センター事業	継続	外国文化の理解や、文化活動の推進	瀬戸屋交流センターでの多文化理解や文化活動の推進するための事業 ①セミナー ②コンサート ③世界の料理教室 ④ワールドフェスタ ⑤講演会 ⑥文化教室 ⑦国際観音イベント	多くの市民が参加していただけるよう、より充実した事業内容にする。	国際交流の拠点であり、事業内容を工夫し様々な外国文化の理解につなげる事業を行う。	平成23年度~	瀬戸屋交流センター	①67 ②122 ③523 ④150 ⑤35 ⑥64 ⑦43	参加者数	人	①129人 ②276人 ③285人 ④320人 ⑤119人 ⑥138人 ⑦89人	①108人 ②274人 ③314人 ④318人 ⑤146人 ⑥121人 ⑦117人	増加	B	◎																							
	120	ライブラリーコンサート	継続	市民が芸術にふれる機会をつくる	クラシック中心のコンサート	図書館施設の特性を生かす	引き続き、市民が芸術にふれる機会をつくる	4月8日、7月15日、11月11日	図書館	0	参加者数	人	672	600	減少	B	◎																							
	121	ギャラリー展示	継続	市民が芸術にふれる機会をつくる	美術作品の展示	図書館施設の特性を生かす	引き続き、市民が芸術にふれる機会をつくる	年4回	図書館	0	展示回数	回	4	4	減少	A	◎																							
	122	富田砕花旧居の公開及び普及啓蒙事業	継続	(1)富田砕花旧居を公開することで、富田砕花を顕彰する。 (2)富田砕花及び富田砕花旧居について、チラシやイベント等を通して広く周知し、市の大きな魅力として位置付ける。	・富田砕花旧居の開館(延べ111日開館、1369人来館) ・富田砕花に関する常設展示の実施(上半期・下半期の計2回) ・富田砕花旧居開館30周年記念事業の実施 (1)庭の補修整備事業 (2)説明板の修理・新設 (3)芦屋オープンツアー(延べ2017人の参加(延べ304人参加)) (4)学芸員による施設開放・見学会の開催 (5)押し染のしおり作りイベントの実施(延べ112人) (6)七夕イベントの開催 (7)展示「砕花をめぐる文豪と文化人」【市民センター・公民館連携】 (8)講演会「富田砕花と谷崎潤一郎~谷川俊太郎氏を招いて~」【市民センター・公民館連携】 (9)広報番組における特集の作成 (10)30周年記念冊子の発行 ・団体見学者の受け入れ	富田砕花を知らない市民が多い。	富田砕花旧居及び富田砕花資料の一般公開。富田砕花旧居においてイベントを開催し、富田砕花の顕彰につなげる。		富田砕花旧居	2,078	見学者数	人	963	1,369	現状維持	A	◎																							
	123	谷崎潤一郎記念館管理運営事業(展覧会事業)	継続	谷崎潤一郎記念館において、各種展覧会事業を実施し、谷崎文学を広く周知すること。	・春の特別展「和らまん」 ・夏の通常展「谷崎潤一郎 人と作品」 ・秋の特別展「春琴抄~くさくすと美との迷宮~」 ・冬の通常展「谷崎潤一郎 人と作品」 ・ロビーギャラリー「文豪ストレイドッグス」展など	谷崎潤一郎という特定の作家を題材としているため、幅広い層を対象とした事業が困難である。	常に新たな切り口での展示を検討していく。	3月25日から6月25日 7月1日から9月10日 9月16日から12月10日 12月16日から3月11日 通年	谷崎潤一郎記念館	1,330(通年事業費)	入館者数	人	15,433	16,195	現状維持	A	◎																							

重点取組項目/施策の方向性	第2次文化推進基本計画での位置づけ		目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)																	
	NO	施策・事業名								新規継続	指標名					市民全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください)							
											指標名	単位	H28実績	H29実績												H30目標	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアール等)
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (1)暮らしに根ざした文化交流のまちづくり	124	谷崎潤一郎記念館管理運営事業(館外事業)	継続	イベントを通じて谷崎潤一郎につながる文学に親しんでいただくこと。	・残月祭(羽田圭介氏講演) ・谷崎映画上映会(春等抄) ・現地講座(京都・瀬田等)	谷崎潤一郎という特定の作家を題材としているため、幅広い層を対象とした事業が困難である。	展示だけでなく、様々な視点から事業を展開し、谷崎潤一郎文学への興味を持ってもらう。	7月24日(午前) 午後10月27日、11月1、14日	ルナ・ホール 京都・瀬田等	1,330 (過年事業費)	来場者数	人	1,522	626	増加	B	◎									◎		◎					
	125	谷崎潤一郎記念館管理運営事業(文学普及事業)	継続	多様化・高度に専門化した館利用者の学習ニーズに対応する	源氏物語講座、俳句講座、スケッチ講座、白磁上絵付講座、短歌講座、歴史文学サロン、仏画講座など	谷崎潤一郎文学以外の分野での文学普及事業において、参加者がその後谷崎潤一郎に興味を持つような事業の展開が困難。	各種広報媒体を利用して、谷崎潤一郎記念館の認知度を上げ、新たな入館者層の拡大・受講者の増加を図る。	通年	谷崎潤一郎記念館	20,820 (過年事業費)	参加者数	人	2,506	2,719	現状維持	A	◎									◎							
	126	美術館管理運営事業(展示会事業)	継続	美術館において、各種展示会を実施し、来館者に美術・芸術に触れる機会を提供すること。	・春ひらくー声優のたからもの展 ・交差するアーティストたちー戦後の関西 ・生涯220年 広重展 ・小杉登久展 ・第64回芦屋市展 ・第35回 芦屋市造形教育展	来館のきっかけはなかったが、新たな来館者、リピーター確保のために、継続した実施が必要。	展示会内容を刷新することなく、幅広い内容の展示会を実施していく。	4月1日から5月21日 6月3日から7月2日 7月15日から9月18日 10月7日から11月26日 12月9日から2月12日 2月17日から2月25日	美術館		入館者数	人	19,037	24,459	現状維持	A	◎												◎				
	127	美術館管理運営事業(常設展示会)	継続	芦屋の文化財を展示し、歴史の紹介を行うことで、芦屋の歴史を学ぶ機会を創出する。	昔の人々の暮らしや芦屋の文化財を展示。	展示期間が長いので、広報・周知の方法について検討する必要がある。	積極的に周知し、特に小中学校の授業での活用を促していく。	4月1日から11月26日 12月9日から2月25日	美術館		入館者数	人	19,037	24,459	現状維持	B	◎																
	128	美術館管理運営事業(ワークショップなど)	継続	美術の面白さ・楽しさ・難しさを発見し、美術に親しんでいただく場をつくる。	びはくルーム 4回 ワークショップ 9回 あしやつくる場 2回	実施する内容・時期を毎年度変えているが、内容によって参加者が大きく異なるため、一定の参加者数を確保する企画が難しい。	様々な内容で実施することで、リピーターや新たな参加者増加を目指す。	通年	美術館		参加者数	人	8,988	10,910	現状維持	A	◎				◎	◎											
	129	文化ゾーン連携事業	新規	芦屋市文化ゾーンでの連携した事業を実施することで幅広い利用者の増加を目指す。	niwa-dokuの開催(3館連携) 芦屋市文化ゾーン講座の開催(全4回)	3館連携事業として実施しているが、一体感の創出が難しい。	継続して実施していく。	11/4 2/1,2/8,2/20,2/22	美術館 谷崎潤一郎記念館	100	参加者数	人	—	725	現状維持	A	◎										◎	◎	◎				
	130	文化財普及啓発事業	継続	市内の文化財を、広報誌や冊子、イベント等を通して広く周知すること、歴史や文化を通じた市の魅力を発信する。	・文化財の展示(3回) ・文化財関連講座(1回) ・文化財関係冊子の刊行(1冊) ・『広報あしや』への文化財関連記事の掲載(計7回) ・文化財普及イベント(1回) ・団体見学者の案内(計2件)	文化財関連イベント等は、多くの参加者を得るのが難しい。	市内の文化財を積極的に活用することによって、その価値や魅力を市民のシビックプライドの向上につなげる	—	—	—	—	—	—	現状維持	A	◎											◎						
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (2)芦屋らしい良好な住まい・景観づくり	131	芦屋オープンガーデン	継続	花と緑いっぱいのもちづくりに向けた市民との協同	花と緑のまちづくりの推進を目的に個人宅、マンション敷地、学校園、公園で活動されている個人・団体から参加を募り、庭や花壇を公開	公共施設、個人参加者の定着及び促進	花と緑いっぱい取組を実施し、市民意識の向上を促す	5月13日~5月21日	市内一円	1,414	参加者数(オープンガーデン箇所)	箇所	121	127	増加	B	◎									◎	◎						
	132	上宮川文化センター図書室	継続	読書活動の推進	上宮川文化センターで図書を貸出す。	今後も適切に事業を継続する。	通年	上宮川文化センター	539	貸出利用者数	人	7,751	9,000	現状維持	S	◎										◎	◎						
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (3)読書のまちづくりの推進	133	ストーリーテリング講座	新規	ストーリーテリングの楽しさを伝えるとともに、おはなし会等の活動者を増やす。	ストーリーテリングに基礎講座	学びを活かす機会	ストーリーテリングの講座は当面実施予定はないが、読書講演会は次年度より継続して実施する。	9月6日、10月4日、11月1日、12月6日	図書館	80	参加者数	人	-	112	減少	S	◎										◎	◎					
	134	おはなしの研究会	継続	おはなしの研鑽	ストーリーテリングに関する勉強会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	図書館	0	参加者数	人	193	213	減少	A											◎						
	135	こどもの本の研究会	継続	絵本の鑑賞・批評	絵本の読み聞かせに関する研鑽	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	図書館	0	参加者数	人	151	145	現状維持	B												◎					
	136	怖いおはなし会	継続	怖いおはなしを特化したおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	8月2日、8月3日	図書館	0	参加者数	人	109	112	現状維持	A												◎	◎					
	137	こどもおはなし会	継続	子どもたちにおはなしや読書の楽しさを伝える	子ども対象のおはなし会	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎週土曜日	図書館	0	参加者数	人	759	1,075	減少	S										◎	◎						
	138	絵本の会	継続	子どもを対象とした絵本の読み聞かせ	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	毎週土曜日	図書館	0	参加者数	人	675	797	減少	A											◎	◎						
	139	打出分室こどもおはなし会	継続	子どもたちや大人に本の楽しさを伝える	親子を対象としたおはなしと読み聞かせ	保護者への取り組み	引き続き事業を継続・充実させる	毎月1回	打出教育文化センター	0	参加者数	人	54	98	現状維持	A											◎	◎					
	140	小学生の本の部屋	継続	子どもたちにおはなしや読書の楽しさを伝える	ブックトーク	職員・ボランティアの育成	引き続き事業を継続・充実させる	5月28日	図書館	0	参加者数	人	13	23	現状維持	B										◎	◎						
	141	公民館図書室	継続	本に触れる機会を提供する	図書の貸出し		今後も現状の事業レベルを維持する。	通年	公民館図書室	1,813	人数	人	15,076	14,261	現状維持	A	◎										◎						
③芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (4)文化を通じたまちの魅力の一体的な発信	142	ご当地ナンバープレートの交付	継続	市内外に「芦屋らしさ」を発信する。	50cc以下の原動機付自転車ご当地ナンバープレート(2種類)の交付	交付対象が原動機付自転車(50cc以下)の所有者に限られる。	新規登録だけではなく、既存の所有者に対してもご当地プレートへの交換を働きかける。	常時	課税課管理係窓口	110	発行枚数	枚	237	273	現状維持	A	◎									◎							
	143	文化財保護事業	継続	市内の文化財を調査・研究し、文化財の価値を把握した上で保護・保存するとともに、その成果等を周知する。	・文化財調査報告書の刊行(4種類)	発掘調査の出土品等の整理・保管が十分にできておらず、数多くの調査成果が保管施設に眠ったまま活用されていない。今後、発掘調査の成果を有効に市民に発信できる環境を整備する必要がある。	市内の文化財を破壊や消滅から守り、後世に残すために、収集し、調査・研究によってその価値を明らかにする。	—	—	—	—	—	—	現状維持	A													◎					

◆第2次文化推進基本計画に基づく事業評価票(照会シート)

第2次文化推進基本計画での位置づけ 重点取組項目/施策の方向性	NO	施策・事業名	新規・継続	目的	内容	課題	今後の方向性	実施期間	実施場所	平成29年度事業費 (単位:千円)	成果指標					自己評価 S:計画以上の成果 A:達成できた B:ある程度達成できた C:達成できていない	対象(ターゲット) (該当するところ◎をご記入ください)										広報媒体 (掲載された広報媒体(該当するところ◎をご記入ください))								
											指標名	単位	H28実績	H29実績	H30目標		市民全般	男性	女性	乳幼児	小中学生	成人	高齢者	障がいのある人	外国人	その他	広報あしや	市HP	ウェブサイト(市HP以外)	ポスターチラシ	SNS	TV新聞等	その他(あしやトライアングル等)		
③ 芦屋文化を生かした戦略的なまちづくり (4) 文化を通じたまちの魅力の一体的な発信	144	シティプロモーション事業	新規	本市の魅力を活かしたシティプロモーションを行うことで、市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度を向上させ、交流人口の増及び人口流入促進を図る。	PR動画の制作・放映	限られた時間のなかで、全ての文化的魅力を発信できなかったこと。	高級住宅だけではなく、芦屋市の文化的魅力をPR動画を通じて発信していく	動画公開:12月19日~	市内全域	7,345	再生回数	回	-	9,921	増加	B	◎												◎	◎		◎	◎	◎	
	145				「高産の滝」ハイキング撮影会	子育て世代の参加をもっと増加させること	実際に様々な場所に訪れることによって芦屋市の魅力発信へとつながる。	11月23日	阪急芦屋川~高産の滝	3,658	応募者数	組	-	30		B	◎													◎	◎				
	146				親子向け撮影会	小さいお子さま連れのためイベント実施日での訪問場所が限定されてしまうこと	実際に様々な場所に訪れることによって芦屋市の魅力発信へとつながる。	12月2日	芦屋市総合公園		応募者数	家族	-	69		B	◎														◎	◎			
	147				モダニズム建築撮影会	イベントを通じて特別に様々なスポットを撮影させていただけしたが、日常的には困難であること。	市内にあるモダン建築の魅力発信をイベント等を通じておこなっていく。	12月21日、22日	芦屋モノリス		応募者数	人	-	52		A	◎													◎	◎				
	148				親子で楽しむ芦屋クラシック体験	芦屋市立美術館を利用できる日が限られているため、毎年実施するのは日程としても困難であること	芦屋市立美術館をはじめ文化ゾーンに訪れていただく機会を増やすこと。	平成30年3月4日	芦屋市立美術館		応募者数	人	-	1,041		A		◎	◎	◎	◎	◎								◎	◎	◎	◎	◎	